

「世界一」へ最短距離を進む

【市長】 遠藤さんが代表を務める株式会社Xiborgでは「世界最速の競技用義足の開発」という目標に向け、どのような取り組みをされているのでしょうか。

【遠藤】 株式会社Xiborgには「世界で一番速い義足を作る」という理念に共感してくれる人が集まっています。そして、「世界最速」つまり「世界一」というゴールにたどり着くために何が必要かを常に考えています。

【市長】 世界一という明確なゴールがあり、そこまでの最短距離を進むことを何よりも重要とされているのですか。

【遠藤】 そうですね。だから、世界一になるために必要なことはどんなことにも挑戦してきました。例えば、競技用義足の素材としているカーボンのエキスパートである東レ(株)の社長にプレゼンする機会を手に入れ、世界一への想いをぶつけ、結果、パートナーになってもうかができました。

【市長】 ゴールに向けて積極的に挑戦する姿勢が、掴んだチャンスを見事にものにしたんですね。

【遠藤】 僕はパートナーシップってとても大事だと思っています。自分のアイデアや技術だけではどうにもならないことも、世界一と

いう想いに共感してくれる人が集まり、それぞれの得意分野で力を発揮する。一流の技術や知恵が集結し世界一を目指して作った義足は、世界中の選手から興味を集め、さらなるパートナーシップにより世界一へとまた一歩近づけることができるんです。

【市長】 想いがどんどん繋がって世界一になるための環境ができあがっていくんですね。私が目指すまちづくりと一緒にです。

【遠藤】 市民の皆さんがふるさと沼津のことを誇りに思う気持ちが繋がれば、市長の言う「世界一元気な沼津」が実現するかもしれないですね。

【市長】 主役は市民であり、それを支えるのが私たち行政の役割です。市民の皆さんが持っている可能性って凄いですよ。



遠藤さんらが開発した競技用義足「Genesis」

【遠藤】 会社は都内にありますが、月に2回くらいは沼津に帰ってきているんです。その時、地元の縁で「リノベーションまちづくり会議」に参加させてもらったことがありますが、皆さんのポテンシャルの高さを感じました。空き家を活用して地域を活性化しよう、沼津の魅力をもっと発信しようとか期待せずにはいられません。

【市長】 だからこそ私は「市長と語る会」の開催や様々な行事への参加、SNSの利用などを通じてまちづくりの主役であり、様々な想いを持つ市民の皆さんとの対話を大切にしています。私だけではできないことも皆さんと一緒にできるところはありますから。

【遠藤】 そうですね。僕も世界一、世界一って言い続けたことで、それに共感してくれる仲間が集まってくれた。僕が代表として本場に挑戦していることって、こうして「世界一」って言い続けていることかもしれないですね(笑)。

「世界一」の先にあるもの

【市長】 言い続けることによって大事ですよ。私も「世界一」って言い続けますよ。遠藤さんにとっての世界一って記録とか金メダルだけではないですよ。

【遠藤】 競争に勝つことは一つの指標ではありますが、もっと先の

ことも考えています。僕らが見たいのは、世界が驚く現象が起こり、それが当たり前になっていくこと。

【市長】 そのためのポイントが2020年開催の東京パラリンピックである。

【遠藤】 はい。まずはパラスポーツの祭典で僕らの作った義足を履いたランナーが金メダルを獲得することが大事であり、そのためには技術の成熟が不可欠です。技術の成熟は、障害のある人となない人の差を無くし、同じ舞台上で競うことを可能にする。更には逆転させることもあり得ます。そう言った「障害」というものの認識は確実に変わっていきます。特にスポーツは「記録」として目に見えるので、そんな光景を見ることができるよう技術の成熟を追求し「世界一」を目指しています。

【市長】 遠藤さんからは「世界一」への熱い想いを感じると同時に、Xiborg社の「すべての人に動く喜びを」というメッセージから、障害のある人となない人の垣根を取り除くことへの強い想いを感じます。

【遠藤】 誰にでも、できることとできないことがあるように障害のある人となない人の境目は実はないのではないかと思うんです。テクノロジーが進歩し、障害のある人にもできることが増えていけば境



▲義足を履いたアスリートたちの練習の様子

ブリリア 新豊洲Brilliaランニングスタジアム

平成28年12月10日に東京都江東区豊洲にオープンした運動施設。建物内には全天候型陸上トラックに加え、「Xiborg」のラボを併設。義足のアスリートが走るすぐ横で義足の調整や研究ができ、競技用義足の技術開発促進が期待される。また、一般の人にも開放されており、競技用義足体験や小学生を対象としたランニングスクール等が開催され、多くの人々がスポーツを楽しみに訪れている。

目はますます曖昧になってきます。それを実現するエンジニアになりたいですね。

【市長】 テクノロジーの役割がとても大きなものになりますね。

【遠藤】 はい。「障害の有無に関わらずみんなができる」を実現させるすべての人に動く喜びを届けたいという信念で義足を作り続けていきます。

「つひも」挑戦「つひも」

【市長】 今日は遠藤さんとお話できて、たくさん元気をもらいました。沼津には世界で活躍したいと思っている人や起業しようという人、様々な可能性を秘めた若い人など元気な人がたくさんいます。最後に、そんな市民の皆さんにメッセージをお願いします。

【遠藤】 皆さんにも昔の自分にも伝えたいことになりましたが、興味を持ったことにはどんどんチャレンジして欲しいと思います。そして、得た知識や経験から本当に自分がやりたいことを見つけ、そのゴールに向けチャレンジし続けて下さい。

【市長】 遠藤さんにもぜひ沼津を元気にする仲間になって、一緒に盛り上げて頂きたいと思っています。本日は、ありがとうございました。

【遠藤】 こちらこそありがとうございました。



issic 健身墊 (大岡)